

H30地域協働研究（ステージⅠ）

H30- I -18 「八幡平市による人口減少社会の中での地域にあった子ども子育て支援事業計画に関する研究」

課題提案者：八幡平市

研究代表者：社会福祉学部 佐藤匡仁

研究チーム員：金田一捷誠（八幡平市地域福祉課）

<要旨>

本研究は、次期八幡平市子ども子育て支援計画策定に資する調査の一つとして、市の課題の一つである保育士確保問題をテーマに、本学保育士資格取得希望学生の意向調査を実施した。本学において保育士資格取得を希望する4年生を対象に、就職先としての保育所をどのように見ていくか(待遇、地域、園の特色、雰囲気等)、考え方の手順等を尋ねた。その結果、求人票では待遇、地域を確認し、ネット等において園の特色等を詳しく調べる手順をとるが、十分実際については分からないため園見学に移る流れが見られた。その際重要視しているのが、保育者-子ども間、保育者-保護者間、そして保育者同士の人間関係をはじめとする雰囲気の良さ等であることが示唆された。

1 研究の概要（背景・目的等）

本研究は、次期八幡平市子ども子育て支援事業計画策定に資する調査の一つとして、市の課題の一つである保育士確保問題にテーマを絞り、本学保育士資格取得希望学生の意向調査を実施した。保育士資格取得を希望する4年生は、就職先としての保育所をどのように見ていくか(待遇、地域、園の特色、雰囲気等)、考え方の手順等を尋ねた。また、判断の背後の理由に接近するために、保育所実習体験を尋ねた。これら学生目線を通して、保育士を確保するために必要な改善要素を抽出し提言することが目的である。

県内14市の中でも人口減少の激しい八幡平市では、保育所の施設整備を近年着実に実施してきているが、低年齢児の待機児童の増加や保育士不足などの問題が顕著化しており、その解決に向けた取り組みが大きな課題となっている。特に低年齢児の待機増加については実態の把握とその原因、また児童受け入れのための保育士確保について問題点・課題点を整理する必要がある。

2 研究の内容（方法・経過等）

- (1)対象：保育士資格取得を希望する本学部4年生20名
- (2)期間：2018年10月～2019年2月
- (3)手続き：対象学生に趣旨説明し協力を依頼するとともに質問紙を配布、終了後box及びメールにて回収した。記載内容に基づき協力を得られた学生にヒアリングによる追調査を行った。
- (4)内容：①就職先としての保育所をどのように見ていくか(待遇、地域、園の特色、雰囲気等)、②自らの保育所実習体験について(保育所実習を通して保育者になりたいと意を強くした出来事、保育所実習を通してこのような保育所で働きたい・働きたくないと思った出来事)

3 これまで得られた研究の成果

Table1に、就職を考える中で、数多くの保育所をどのように見ていくか、選び方をどう進めていくか、求人票をどのように見ていくか、についての回答を示す。求人票では待遇、地域を確認し、ネット等において園の特色等を詳しく

く調べる手順をとるが少なくないが、十分実際について分からないため園見学に移る流れが見られた。その際重要視しているのが、人間関係をはじめとする雰囲気であることが示された。

Table 1 就職を考える中で、たくさんの保育所をどのように見ていくか。選び方をどう進めていくか。求人票をどのように見ていくか。(代表的な記述)

- ・地域→給料→待遇→園の特色や雰囲気
- ・園見学をしたい学生が多い。個別に対応してくれるのは知っているが、園見学の情報やボランティアの情報などがもっとあれば行きやすいのではないかと不安があるため、あらかじめ園見学の日程があると行きやすい。
- ・私は、小規模の保育園で働きたいと思いついています。職員間の雰囲気や保育の様子を知りたいので、説明会に行ったり、園見学に行ったりしたい。生きるために働くので、給与面も見たい。
- ・私は給与も大切だと思うが、職場環境を重視して就職先を選びたいと考えている。具体的には保育者同士の仲の良さ、働きやすさ、雰囲気の良さ(笑顔)などで、園見学などを通して見て決めていきたい。また、岩手県内で就職したい。知りたいことは、園の評判や先生方のご意見をお伺いしたい。多くある園全てを見ることは不可能に近い。また、自分自身でもどのような園が自分に適しているかが明確ではないため、どのような園が良いかを自分自身の中で整理し、考えていくとともに、第三者の意見として、仲間や先生方にご意見をお伺いしたい。
- ・どのようなことを大切に保育しているのか、保育者同士の関係は良好なのか1番気になります。また、大卒の保育士の待遇、お給料についても必ず考慮します。
- ・地域→待遇→園の保育方針→先生方の人間関係、という順で考えています。賞与や退職率、転勤の有無について知りたい。
- ・就職を考える際、選択肢がたくさんあるため、まずは、地元の保育所への就職を考える。また、実習で行った保育所に魅力を感じた場合は、待遇を見て決めると思う。一貫して、園の雰囲気や職員同士の人間関係に注目して、精神的に働きやすい職場を希望する。
- ・求人票や先生方からの情報を基に自分で調べ、園見学する。職員間の雰囲気や日々の残業など、見学では知ることができない部分を知りたい。
- ・現在は、まず給料をチェックしてから、園の特色や雰囲気などを見ていく。求人は関東の方がたくさん出ているように感じるため、まずはそれら出ている分を見ていく。実際に働くとなると、園の特色や雰囲気を知ることが自分らしい保育を行うためにも知るべき点だと分かっているが、それで生計を立てなければいけないことを考えると、やはり給料をチェックしてしまう。職員の仲の良さは非常に気になる点であるが、個人の価値観の違いもあるため、自分の目で確かめることが必要であると感じている。
- ・私は保育方針・園の規模・待遇というように見ていきます。気になる園はインターネットで調べることもあります。年中求人を出しているところは、私は避けてしまっています。
- ・保育所実習のほかに施設実習も経験し、施設に勤めたいと考えたため、保育園については調べていない。
- ・自分自身の働きたい地域の求人を見ず見て、そのうえで、給与や待遇、福利厚生などを見るようにしている。園見学では、子どもがのびのびと遊べる環境が整っているか、園庭があるか、職員間のかかわりや連携の様子は

どうか確認するようにしている。特色としては、園独自の特色に重きが置かれすぎていて、通常保育が偏ったものになっていないか見ている。

- ・待遇、人間関係、保育の様子、保護者とのかかわり、園舎の環境、園の場所などが知りたい
- ・私は岩手から離れることはできないので一番重視するのは地域ですが、本当は園の特色や雰囲気が一番気になります。待遇については、あまり意識していません。求人がいつも出ている園だと、就職しやすいのかな、とも思いますが、辞める人が多くてずっと求人が出ているのかな、とも思ってしまいます。
- ・勤務場所や転勤があるかをまずチェックしている。気になる園のホームページは見ているが、園見学しないと実際の様子が見えないと思うため、園見学をするようにしている。
- ・園の周りの環境や園庭があるかどうか、私のなかでは重要視したい部分である。また、実際に働いてみないと分からないことではあるが、先生同士が言いたいことを言い合える環境であってほしい。○○式といったスポーツなど何かに特化した園よりは、自然のびのびと、子どもたちそれぞれが好きなことや得意なことを見つけていけるように見守る雰囲気のある園に魅力を感じる。
- ・まず、地域で絞り、保育の特色を調べることで自分がそこで働いていけるかを考える。そして、待遇を見る。良さそうと思ったら見学に行く。
- ・園の雰囲気を一番重視したいと思う。子どもがのびのびと遊んでいるか、子どもが保育者に心を開いているか、保育者同士がよい関係性かどうかなどは、園の雰囲気できちんと感じることができると思う。次に重視したいのは、園の特色だと考えている。自然の中でのびのびと子どもの主体性を伸ばすことや、様々なことに挑戦できる園に魅力を感じる。加えて、やはり待遇がいかどうかは大切だと思う。自分が心から働きたいと思える園で長く働くためには、給料や、子どもを産んだ後も働けるかどうかは大変ポイントだと思う。
- ・①岩手県内か、②給料はいくらぐらいか、③休日はいつか、④住居手当や交通費はどのくらいか、⑤ボーナスはあるか。また、園の雰囲気、職員同士の関係性は良好かについて、知りたい。

Table2に、保育所実習を通して、このような保育所で働きたいと思った出来事についての回答を示す。「子どもも保育士(特に新人保育士)も笑顔で生き生きしている園」「子どもの成長をかかわりの薄い保育士も一緒に喜んでいる園」「保育士同士のプライベートのことも含め楽しそうに雑談している園」等を雰囲気の良さとして述べていた。

Table 2 保育所実習を通して、このような保育所で働きたいと思った出来事(代表的な記述)

- ・子どもと保育者の間に信頼関係があることが感じられ、クラスがまとまっていると感じたとき。また、異年齢での活動を多く行っており、その中でお世話をする年長さんの様子や年長さんの真似をする年少さんの姿を見たとき。
- ・保育士の方全員が子どもをまっすぐに見つめてかかわり、子どもも保育士も常に笑顔だったことが、本当に幸せて、私もこのような場所で働きたいと思いました。またそれだけでなく、実習生の私に対する指導も、もっとこうしたほうが良い、とアドバイスをくださったりほめてくださったり、とても丁寧に行っていたので、すごく嬉しかったです。
- ・保育者も子どもも保護者も笑顔にあふれている、保育者同士、保育者と保護者の仲がいい、子どものことを大切に、共に成長し、成長を見守り、喜び合っている姿、考えを発信することができる環境があるということからこのような園で働きたいと感じた。
- ・子どもが好きな遊びを楽しんでいる姿や保育者と保護者の信頼関係が厚く、子どもの成長を共に見守るパートナーとしてよい関係が築けているなど感じ素敵だと思いました。また、保育者の仲が良くお互いを敬う姿勢があり、いつも笑顔で会話している様子の保育所はぜひここで働きたいと思いました。
- ・戸外遊びの際に子どもたちが裸足で園庭を駆け回っていて、保育者も一緒になって裸足で遊びこんでいたこと。
- ・保育者の役割は、子どもを育てるのではなく、子どもの主体性のある育ちを伸ばすと教えていただいたこと。
- ・子どもたちが保育室で遊ぶときの玩具が、ほとんど保育者の手作りの玩具であったこと(ままごとで使用される食材や病院ごっこで使用される注射や薬など)。
- ・子どもの成長をクラスの先生のみではなく施設全体で喜んでいてこと。
- ・初めての实習だったこともあり、失敗やうまくできなかったことがあり、落ち込んでしまったこともあったが、実習担当の保育士の方が励ましてくださったとともに実習担当の保育士の方の保育に関する考え方が素敵でこのような保育士がいるのなら働いてみたいと感じた。
- ・職員間の仲が良く、子どもたちにも全員に自分の子どものように愛情をもって接しているのが、保育者の表情や関わりから分かったとき。

- ・保育者と保護者の仲がとてよく、子どもものびのびと園で生活しているのを見たこと
- ・新人とみられる先生が生き生きしていたこと(もし職員同士の仲が悪く、新人であることを考えると、生き生きすることは難しいのではないかと考えるため)
- ・先生方が子どもにも保護者にも実習生にも温かい関わりをしており、先生同士のチームワークが良く毎日楽しそうに働いている雰囲気だったとき。
- ・保育の内容や環境も子どもを考慮して構成しているように感じられた施設。
- ・先生方の雰囲気がとても温かかった。
- ・保育者と保護者の距離感が近く、常にあっただかい雰囲気のなかで保育が行われている中で実習できた時に感じた。また、子どもの思いに寄り添った保育が行われている様子が園全体で行われているのを見て働きたいと感じた。
- ・先生方の人間関係がよく、明るく、生き生きとしていること
- ・先生方の雰囲気が明るく、子どもたちがのびのびと遊んでいる園です。遊具に既製品ではなく手作りのものがあつたり、先生同士や、先生と保護者が仲の良い様子が伝わってくると、子どもたちも安心できると思いますし、園全体の雰囲気も明るくなると感じました。実習園では子どもたちが自分の保護者に今日の出来事を嬉しそうに話していて、それを見て保育者が保護者にそのときの詳しい様子や「○○くんはこんなふう頑張っていたんですよ」と楽しそうに話している姿を見て、このような園が良いと感じました。子どもたちの笑い声の絶えない園だったので、そこが素敵だなと思いました。
- ・先生同士の連携がしっかりしており、お誕生日会などの行事で先生が本当に楽しそうにしている姿を見た時に、このような保育所で働きたいと思った。
- ・緑豊かな自然に囲まれているという特性を生かして、園庭や公園、近くの畑などを積極的に活動の場として取り入れていたり、虫や花など生き物をみんなで育てたりしているところに魅力を感じた。先生方も気持ち悪がり嫌がったりせず虫を触るなど、園全体として子どもと同じものに感性を動かせる先生方がいると、とても魅力的に感じられる。
- ・先生方が助け合いながら保育をしており、仲が良さそうな雰囲気があつたこと。
- ・保育者同士の会話がも多く、子どもの成長を心から喜んでいる姿を見たときに、保育者同士の関係がよい保育所がよいと感じた。
- ・保育者同士がコミュニケーションをよくとる姿をみた。
- ・自分の悩みに真摯に向き合ってくれる保育者がいた。
- ・保護者とのコミュニケーションもよくとれており、関係が良好であること。
- ・保育者自身が心から楽しんでいる姿をみたこと。

その他、ヒアリング調査を含めて、例えば注意を向ける視点として、「子どもを雑に扱っていないか」「子どもの思いを聞かず一方的にかかわっていないか」「子どもを怒ってばかりいないか」「先生同士に会話や雑談があるか」「非正規職員が正規職員の悪口を話していないか」「保育士が主任保育士や園長の悪口を話していないか」等をはじめ、保育者-子ども間、保育者-保護者間、保育者同士の人間関係をはじめとする雰囲気の良さ等であることが示唆された。

4 今後の具体的な展開

保育士確保のためには、潜在保育士の再就職支援、保育士資格取得新卒者の保育現場への就職支援、新人保育士の早期離職予防をはじめとした就業継続支援等が考えられ、そのために各自治体は、宿舎借り上げ支援事業、就職準備金貸付事業、奨学金返還支援、保育士修学資金貸付等の条件整備に取り組んでいる。一方保育現場では、保育士不足等による余裕のなさが、保育の質向上や同僚性形成の障害に影響し、学生のいう“雰囲気”の良さとして伝わらず、これから保育現場で働こうとする有資格者に訴求していないケースが見られる。次期八幡平市子ども子育て支援事業計画策定のための基礎資料として役立てたい。

5 謝辞

調査に協力してくれた本学部保育士課程4年生に、記して謝意を表します。